



### コミュニケーション

**高橋** 聞こえがあってもなくても想いを伝え合うことができると実感しました。障害に限らず、学校にはいろいろな境遇の生徒がいます。違いはあるけど、それは埋まらないし、ないものなだりをしてしまうがないので、自己肯定することが大切だと思います。

**柳** 高橋さんは、教育者である前に一人の強い母親という印象を受けました。高橋さんの言葉は一つひとつに愛を感じるもので、久しぶりに母の愛に触れた気がしました。特に「家族を大切にしたい」と言われたのが印象的で、それは私の原点です。

**高橋** 柳さんは自身の生きざまを「あがくこと」だとおっしゃいました。「倒れるときは前のめり」でも、それができるのは、ご家族や従業員の方たちを信頼しているからだと思います。柳さんは発信力があって、最後まで自分の中の火種を消さず、走り続けられる方。より多くの人たちに「気づきの種」をまいてほしいです。

**柳** 誰もが「ありがとう」をもらえる社会を目指して仕事をしています。こちらが「ありがとう」を言うことはあっても、言われる機会はありません。私たちは社会とつながりたいし、失敗を繰り返しながらも成長したいのです。難が有ることが当たり前で、それは成長につながる感謝すべきことです。だから「有難う」なのだと思います。そのためには人のために動く行為、すなわち「働く」ことが全て。当店はそのため存在しています。

### 当コーナーの参加者募集!

次回の読者参加企画への参加希望者を募集します。新年度を迎えるにあたってリニューアル予定ですが、よりよい体験をしていただける企画をご用意いたしますので、ぜひご応募ください。

**応募方法** 差込の「かがやき」編集担当宛てはがきにある参加希望欄にチェックを入れてお申し込みください。  
※夏号以降にご参加いただく場合もございます。

**応募締切** 平成27年4月17日(金) 必着

**取材時期** 4月下旬(予定)

「ろう者を象徴的に表すとしたら、どんなマークにしますか?」という問いかけに悩む高橋さん。「ヘッドホンをいつも付けている感じかな?」という答え

### はっとさせられる考え方

かべながら流暢な手話で「よろしくお願ひします」と返してくれました。



スープの仕込みを手伝う高橋さん



# 手話カフェの仕事学ぶ



「ろう者を象徴的に表すとしたら、どんなマークにしますか?」という問いかけに悩む高橋さん。「ヘッドホンをいつも付けている感じかな?」という答え文化の異なる人たちが、相



店内の壁一面に設置された特大のホワイトボード。訪れた人それぞれの母語でメッセージが残されています

### 音声日本語を使わずに通じ合う

手を尊重した上で関係を築くために必要なものだと思います。



「少し休憩しましょうか、飲み物はありますか?」「キャラメルラテを」。驚いた高橋さんでしたが、スタッフに筆談と身振り手振りで聞きながら作り始めます。エスプレッソやミルクの量をカップできっちり図り、生クリームとシロップを乗せて完成です。自分で作ったラテを楽しみながら、柳さんとの筆談を続けました。

「ろう者を象徴的に表すとしたら、どんなマークにしますか?」という問いかけに悩む高橋さん。「ヘッドホンをいつも付けている感じかな?」という答え文化の異なる人たちが、相

「ろう者を象徴的に表すとしたら、どんなマークにしますか?」という問いかけに悩む高橋さん。「ヘッドホンをいつも付けている感じかな?」という答え文化の異なる人たちが、相



「ろう者を象徴的に表すとしたら、どんなマークにしますか?」という問いかけに悩む高橋さん。「ヘッドホンをいつも付けている感じかな?」という答え文化の異なる人たちが、相

読者参加企画

## 組合員×プロフェッショナル仕事を学ぼう!

このコーナーは組合員が異業種の職場を訪れ、その仕事を体験する企画です。普段とは違う仕事をし、その道のプロの方たちと意見交換することで、新たに学ぶことも多いものと思われま



- 当日15:00～17:00
- 午後2時 オリエンテーション、自己紹介
- 午後3時 仕事説明
- 午後4時 仕事体験
- 午後5時 対談(筆談)
- 午後5時30分 解散



厨房での作業の前に柳さん(右)から筆談で指示を受ける高橋さん(左)

### 今回の組合員代表

新宿区立新宿西戸山中学校 勤務 **高橋藤枝さん**

保健体育の教員である高橋さん。学生時代は体育心理やリハビリテーションを学び、特別支援教育コーディネーターの経験もあるそうです。料理や洗い物は毎日家でこなしているから自信があるとのこと。

### 今回のプロフェッショナル

柳匠裕さん  
手話カフェ「Social Cafe- Sign with Me」代表。ろう者、デザイナーや車両研究開発、障害者就労支援業をへて2011年に起業し、同カフェを開業しました。障害者が「ありがとう」と言われ、自尊心を持てる社会の実現を目指しています。